
スマブラ寮での生活

スイーナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ寮での生活

【Nコード】

N2662S

【作者名】

スリーナ

【あらすじ】

スマブラ寮で、歴代スマブラメンバーと4人の人間が一緒に暮らす物語。旅行に行ったり、冒険したりとハチャメチャな生活を繰り広げる！！また、スマブラメンバーのほかに、コクッパ7人衆も出てきます。（主に寮では暮らしますが・・・）

オリキャラ紹介（前書き）

オリキャラ紹介です。かなり短いですが・・・

オリキャラ紹介

オリキャラ紹介

ウィン

13歳男子。身長が高く大柄。突っ込むことが多いがボケることも多い。甘いもの好き。瞬発力はあるが、持久力が若干弱い。

スカイ

14歳女子。身長はウィンとほぼ同じ。突っ込むことが多い。料理好きで機械好き。持久力はある方だが瞬発力が弱い。

ライト

13歳男子。身長は低めで小柄。どちらかというと突っ込むことが多い甘い物好き。持久力、瞬発力など、体育関係の能力はほとんど高い。

シルバ

13歳男子。身長は平均的。何故かグラフィックで動画を作るのが趣味（グロイものが多い）。運動能力は平均的。

オリキャラ紹介（後書き）

次回から物語が始まります！！

この小説に出てくる言葉について？（前書き）

少しですが・・・

この小説に出てくる言葉について？

《携帯手帳》

オリキャラ全員が所持している特殊機能の携帯手帳。若干機械オタクのスカイが製作。手に持った状態で側面（右下）にあるボタンを押すと開くようになっていて。なお、ふたは、上に向かって開く（スライド式ではありません）。中はほとんどが液晶パネルで、右端のみペンが入っている。ペンで画面にあるマークを描くと、いろいろな効果が始まる（着替え・携帯手帳所持者との通話、メール、時空移動、他）。また、手帳本体、特殊効果、マークはキャラによって変わってくる。

現在登場中のオリキャラの携帯手帳は、

ウィン↓青

スカイ↓黄緑

ライト↓黄色

シルバ↓赤

《乱闘体勢》

上記の携帯手帳で着替えたとき、乱闘体勢の服に着替えた場合、人間が普通に大乱闘をしてもいいような能力を持つようになる。つまり、オリキャラが技を使えるのはこの体勢になったときのみ。

なお、オリキャラ全員といっても、“市民1”のように名前がハッキリしていない者は除外される。

《時空移動》

携帯手帳により空間と空間を移動する。ただし、空間移動したときに着く場所に限られる。

〈例〉ニンテンドーワールド? (スマブラ寮) ↓スマブラ寮1階ロビー

ニンテンドーワールド? (マリオの世界) ↓マリオの家・クッパの城・ピーチ城

ニンテンドーワールド? (リンクの世界) ↓リンクの家・Tリンクの家・ハイラル城

アクチュアルワールド (現実世界) ↓スカイの家

・・・・・他

この小説に出てくる言葉について？（後書き）

次回から話が始まります！！

日常生活1（前書き）

何かこう・・・・・・・・グダグダです。

今回はショートストーリーがいくつかある感じです。

マルス「何やってたの？」

リンク「どうして日常でここまでなるのかなあ……。」

ライト「さあ、何でだろうね♪」

青年剣士（ライトのキャラが変わっている……。）

シルバ「よっしゃ!!」

ウイン「シルバ、グラフィックできた？」

シルバ「出来たよ、上出来なのが♪」

ウイン「うわあ、こりゃまた凄い。スカイが見たら一発KOだな。」

シルバ「ちびっ子たいもだろうね。」

スカイ「何見てるの？」

シルバ「あ、見るな!!」

スカイ「は？って………キヤアアアアアアアアアアアア!!」

バタン!!

ウイン「気絶したよ、どうする？」

シルバ「ドンだけグロイのためなんだろう……。」

ガノン「今の音なんだ？……、っておい!!何でスカイが死んでんだよ!!」

スカイ「まだ死んでない!!」↑復活

ガノン「何やってんだよ……。」

スカイ「だって、その映像でガノンが <ピ—————

—————>になってたんだもん!!」

→グロイの苦手な

ガノン「へー、そうか……」
シルバ「あ。」
ウイン「いや……その……」
ガノン「実際にやれないからグラフィックで作ったってことだな？」
シルバ「……あ……えーっと……」

（沈黙）

ガノン「魔人剣!!!!!!」
2人「Noooooooooooooooooo!!」
スカイ「自業自得。南無。」

ピーチ「あーあ、暇だなあ。」
ゼルダ「料理でもする？」
サマス「断るわ……」
ゼルダ「えー。」

日常生活1（後書き）

つまらない小説ですね、ごめんなさい！！

日常生活 2 (前書き)

長く間が空きました・・・。

あ、いい忘れてました、ロイはスマブラとコクツパ両方に出てきています。区別のため、コクツパの方は”ロイK”、スマブラのほうは”ロイS”となっています。

2

今日はコクツパたちが遊びに来ております。

ライト
「ランランランラン♪」

「ご機嫌だなあ、ライト。」

「何かあったのか？」

「こっち来ましたよ。」

ライト 「あ、ウィン！アイク！ピット！ヤッホー………つて………
………ワァ！！」

ドテ！！
（ライトがこけた）

「ノアアアアアアアアアア?！」

パソコン!!!!!!

「ワインが消えた?!」

ライト 「いたたたたた、あれ？ 僕のドセイさんは？」

アイク 「まさか……………」

アイク&ピットが恐る恐る後ろを見ると・・・

「ウィン・ウィン」

ウインはドセイさんに脳天直撃されたうえ、吹っ飛ばされてました♪

アイク 「・・・・・・・・・・・・・・・・ドセイさんコエエエエエエエエエエ・・・・・・・・」

ピット 「ドセイさんってあそこまで威力ありましたっけ・・・・・・・・」

ライト 「あーあ、せっかくスカイに威力20倍のドセイさん作ってもらったのに・・・・・・・・」

アイク 「何を作ってもらってるんだよ・・・・・・・・・・・・・・・・」

ピット 「20倍って、相当な威力ですよ・・・・・・・・」

アイク 「まあ、ウインだからまだよかったとして・・・・・・・・ピットだったらかなり飛ばされてたぞ。」

ピット 「ウインでも良くないですって。」（汗

レミー 「ルドウィックお兄ちゃん！イギーは？」

ルドウィック 「図書室で本読んでたぞ。」

レミー 「ありがと。」

ルドウィック 「ああ・・・・・・・・って、ちよつとまでえええい！！」

レミー 「何？」

ルドウィック 「何だ？！その大荷物は？！」

レミー 「え？イギーに買出し頼まれて・・・・・・・・」

モートン 「その大荷物を？しかも玉乗りしながら？！」

レミー 「うん。」

モートン 「で、何だ？それ・・・・？」

レミー 「え？5教科それぞれの辞書だよ。」

ルド モー 「…….」
レミー 「じゃーねー!!」
モートン 「しかし…….、イギーは本当に勉強好きだな。
そういえば、さっき何読んでたんだ?」
ルドウィック 「電話帳より厚い物理の本。」 (汗
モートン 「…….俺なら絶対に読まん!!」

——図書室——

イギー 「…….なるほどなあ…….」
ロイK (なんて本読んでんだよ、こいつ…….)
イギー 「ふうん、物理学ってすごい。」
ロイK 「おい、イギー……. 。おまえ何時間それ読んでるんだ
?」
イギー 「え? まだ3時間しか読んでないよ?」
ロイK 「集中力強いなあ…….。てか、解るのか? そん
なややこしい本…….」
イギー 「わかるよ、別にややこしくもないし、読んでみる?」
ロイK 「遠慮する。」 (こいつ本当に俺より年下か?)

レミー 「イギー? いる?」
イギー 「あ、レミー。何か用事?」
レミー 「頼まれた辞書買って来たよ。」
イギー 「ありがとう。」
ロイK 「何だ? その分厚い辞書は…….」
イギー 「レミーに買ってきてもらったんだ。」
ロイK 「おい、レミー、まさかと思うが……. 玉乗りしながら
買ってきたんじゃない?」
レミー 「え、そうだけど?」

ロイK 「…………イギーの知能とレミーの運動神経はどうなっている……。」

レミー 「雨でスリルあったから楽しかったよ!!」

イギー 「雨の中で玉乗りか、さすがレミー!!」

ロイK 「……………」

マルス 「さっきからひどい雨……。」

リンク 「本当だな。」

マリオ 「そういえば、さっき凄い悲鳴聞こえていたけど……。」

「

ルイージー 「あの声ってウインだね?」

スカイ 「たぶんライトの持っていたドセイさん当たったんじゃない?」

シルバ 「そういえば威力20倍のやつ作ってたな。」

マリオ 「?!」

ウエンディ 「い……威力20倍?!」

スカイ 「うん。威力20倍。」

マルス 「なんでそんなものを……?」

シルバ 「たしかライトは威力倍増のドセイさんが欲しいって行ってたから……だよな?」

スカイ 「Yes!!」

マリオ 「……………」

日常生活 2 (後書き)

ああ、もうグダグダ・・・。

夜の時間？（前書き）

続き物になります。

夜の時間？

前回同様コクッパが来ております。(泊りがけ♪)

スカイ 「夕飯の時間だよ♪」
ウイン 「OK!!」

クッパ 「息子達の分まで作ってもらって申し訳ない……。」
シルバ 「かまわない、かまわない。」
スカイ 「あんたはサラダ作っただけでしょうが……。」
シルバ 「アノ数作るのは結構大変だったぞ。」
ライト 「まあまあ。」

ウイン 「ライト、お前は何もしてないだろ……。」 ↑運ぶのは手伝った

ライト 「あーこれおいしい!!」
ウイン 「ごまかすなー!!」

オリマー 「今日はいつにも以上に疲れましたよ。」
ファルコン 「何があったんだ？」

オリマー 「乱闘やっていたんですけど……リンクに3回、マルスに7回飛ばされました……。」

ファルコン 「?!……お疲れさん。で勝ったのはマルスか？」
オリマー 「いいえ、ラリーでしたよ。」

ファルコン 「コクッパ7人衆って乱闘していいのか？」
オリマー 「いいらしいですよ。」

ファルコン 「俺も今度モートン達とやろうかな……。ん？ちょっと待て！」

オリマー 「はい？」
ファルコン 「ラリーがマルスたちに勝った?!」
オリマー 「はい。いやぁ・・・実は・・・。」

2時間前

マルス 「必殺の一撃!!」
ラリー 「よっと!」 ↑コクツパの中ではジャンプ力がいい
オリマー 「は？」

バッシイイイイン!!

オリマー 「ワアアアアアア!!」
ラリー 「テヤアアアアア!!」 ↑火炎攻撃
マルス 「は？」

バシユ

マルス 「ヒー!!」

現在・・・

オリマー 「って感じです。」
ファルコン 「つまり、ラリーは最後の切り札の効果が切れた瞬間に

攻撃していたと。」

オリマー 「はい。」

ファルコン 「で、ラリーのよけた最後の切り札がすべてオリマーに当たったと。」

オリマー 「はい。」

ファルコン 「……………」

ソニック 「今日スネークと大乱闘やったんだけど……………」

フォックス 「ど？」

ソニック 「タイマーのせいでスピード出せなくて負けた。」

フォックス 「お疲れ。だけど俺も今日やったんだけど……………」

ソニック 「ど？」

フォックス 「何故かアイテムがバンパーとボムヘイだけでしかも吹っ飛び率が2，0。」

ソニック 「設定…………誰にやらせたんだ？」

フォックス 「シルバとライト。」

ソニック 「あの2人ならやりかねないな。」

レミー 「今日は疲れたね〜♪」

イギー 「うん、でも今日のノルマは達成できたし。」

レミー 「僕も♪」

アイク 「そういえば、2人はここ来るとき、ノルマがあるって言っているけど……………」

ピット 「お宅のお城ではできないんですか？」

レミー 「滑りやすい氷や雪の上でのトレーニングだったら自分の城や付近でできるけど……………」

マルス 「それじゃあダメなのかい？」

レミー 「陸上競技の特訓とかはできないんだよね。」

マルス 「あー、なるほど。」

アイク 「イギーは？」

イギー 「気候や植物の研究だったらできるけど実験とかはこっちのほうがやりやすいんだよね。」

ピット 「辞書はいつもこっちで買っているんですか？」

イギー 「うん、いい辞書はこっちのほうが多いから。」

リンク 「で、今日のノルマは？」

レミー 「20メートルシャトルラン500回以上。」

イギー 「物理の辞書読破とその辞書の付属ドリル80点以上。」

リンク 「お疲れ……。」

マルス 「で、結果は？」

レミー 「532回。」

イギー 「97点。」

ピット 「イギーさん問題見せてもらえますか？」

イギー 「これ。」

アイク 「ん？……って……。」

青年剣士 「難しすぎる?!」

全員 「ごちそうさまでした。」

スカイ 「誰か片付け手伝って!!」

クツパ 「お前達……。」

コクツパ達 「？」

クツパ 「泊めさしてもらっているんだ、手伝ってこい。」

レミー 「はーい!!」

イギー 「わかったよ。」

ラリー 「了解。」

ロイク 「ま、少しは手伝っておかなくちゃな。」

ウエンディ 「やるか。」

モートン 「メンドイなあ。・・・。」

ルドウィック 「同感。やりたくないy。」

ロイク 「振動!!」

モートン 「んあ？」

ルドウィック 「おいロイ!! 振動起こすな!!」

ロイク 「黙って働け！」

モートン 「ロイ兄貴・・・。」

ロイク 「何だ？」

モートン 「レミー以外しびれてるぞ。」

ロイク 「あ・・・。」

ネス 「いきなり振動起こさないでよ。」

カービー 「動けないよ。」

ロイス 「こっちの身も考えて。」

ロイク 「すまん・・・。」

フォックス 「で、何でレミーはしびれないんだ？」

ラリー 「ああ、それはたぶん、」

ウルフ 「たぶん？」

ラリー 「ずっとボールの上で跳ねてるから。」

ファルコ 「・・・ナルホド・・・。」

夜の時間？（後書き）

次回、夜の時間？です。

夜の時間？（前書き）

前回の続きです。

夜の時間？

浴場（男）

ネス 「あー、気持ちいい！！」

リュカ 「本当だね♪」

Tリンク 「ニヤリ・・・。。。」

ポポ 「ヒヒヒヒヒ。」

バシヤッ！！

ネス 「うわ！！」

リュカ 「やったな？！」

Tリンク 「ハハハハハハ！！」

ポポ 「イエーイ！！」

バシヤ！

バシヤ！！

ロイス 「お前らあんまり騒ぐn・・・。。。」

バツシャーン！！！！

ロイス 「ンアアアアアアアアアア？！」

ネス 「イエーイ！！」

ロイス 「テメエエエエ！！」

リュカ 「アハハハハハハハ！！」

ロイス 「やったn・・・。。。」

パコーン！！ ↑ マルスがオケで殴った音

マルス 「大人気ないよ、まったく……。」
リンク 「これだからロイは……。」
ロイス 「ダメレエエエエエ!!」
ピット 「まあまあ、ゆっくり入りましょうよ。」 (汗)
アイク 「ライトがまねするZ……。」

ドコッ!! ↑ライトが飛びゲリした音

ライト 「僕はそんな事しない!!」
アイク 「冗談だよ!!」 (汗)
ウイン 「お前ら、騒ぎすぎるとスカイに報告⇒デザート抜きになるぞ?」
ライト 「ゴメーン。」

浴場 (女)

スカイ 「何かあっち (男湯) 騒がしいね……。」
ピーチ 「全く……、何やってんだか。」
ウエンデイ 「どうせ、ルドウィックとモートンとラリーでしょ。」
↑ハズレ
ゼスダ 「ロイじゃない?」 ↑ほぼ当たり
ナナ 「ポポかもね。」 ↑ほぼ当たり
スカイ 「ま、後でウインに聞くとするか……。」

30分後 (長ッ)

ヲッチ 「アノ……」

ロボット 「ドウシマシタ？」

ヲッチ 「すかいガ気絶シテイマスガ？」

ロボット 「え?!」

ウィン 「本気でやったらこうなった。」

皆 「……………」

ライト 「あーあ。」

モートン 「こりゃまた凄いことに……………」

ルドウィック 「どうする？」

シルバ 「意見その?水をかけて起こす。」

アイク 「意見その?デカイ音を出して起こす。」

ナナ 「意見その?そつとベッドまで運ぶ。」

メタナイト 「意見その?そのままにしておく。」

ラリー 「ナナ以外の意見はまずいんじゃ……………」

サムス 「あ!」

ピーチ 「何!？」

サムス 「今日土曜日よね。」

ポケットレ 「うん。」

サムス 「ということは、目が覚めたとき今日が日曜日って思う

かもしれないわ。」

リザードン 「だから？」

サムス 「こうするのよ。」

ポポ 「僕たちはもう部屋で寝てるね」

ちびっ子 「お休みなさい。」

サムスはCDレコーダーを持ってきた。そして……………

サムス 「スイッチオン!」

リンク 「曲流すとどうなるの?」

サマス 「たぶんスカイはこれで起きるわ。皆は引くと思うけど・
・。。」
皆 「？」

ラ・ラ・ラララ スイート・スイート・プリキュア
スイートプリキュア

スイート・スイート・プリキュア スイートプリキュア

ファルコ 「ちょっとマテエエエエイ!!」

サマス 「？」

フォックス 「何だ?!この曲?!」

サマス 「『ラ・ラ・ラ スイートプリキュア』よ。」

ウイン 「ナルホドな。」

ウルフ 「何がだ？」

シルバ 「だってスカイは・。・。。」

スカイ 「ん・。・。・。?」↑復活

ファルコン 「あ、起きた・。。」

スカイ 「今『スイートプリキュア』のOP流れたような・。・

・。。」

マルス 「気絶していてよくわかったね。」

スカイ 「・。・。・。って今日日曜日じゃん!!やばっプリキ

ュア始まっちゃう!!」

一部 「エエエエエエエエ？」

サマス 「今日はまだ土曜日よ。」

スカイ 「え?あれ?あ、でも曲がフルだからCDか・。・。。」

何だ・。・。。」

ガノン 「おい、スカイ・。・。。」

スカイ 「ん？」

ファルコ 「おまえプリキュア見てるのか？」
スカイ 「うん。」

※いい忘れていましたがオリキャラ達は作者自身と作者の友人達がモデルになっています。そのため、作者がモデルのスカイはプリキュア好きです。

サムス 「ね、起きたでしょ。」
リンク 「はい、」
マルス 「ま、起きたからそれでOKということで。」
ピット 「すみません、僕たち寝ますね。」

スカイ 「さて、コクッパたちはどこで寝てもらおうか………
・。」

ウイン 「また俺達の部屋でいいんじゃないか？」

ライト 「OK!!」

シルバ 「賛成。」

スカイ 「それじゃあ……ウェンディ、この間と同様にピーチの部屋でいい？」

ウェンディ 「OK」

ピーチ 「了解。それじゃお休み。」

ウイン 「それなら俺の部屋はロイか………」

シルバ 「俺の部屋がルドウィックで………」

ライト 「僕の部屋がモートン………」

スカイ 「残りの3人が私の部屋。」

ウイン 「でも3人も大丈夫か？」

スカイ 「3人とも小柄Or痩せ型だし私朝早いからベッドが狭いのは一時的だし。」

シルバ 「ま、ここのベッドは広いから大丈夫だろう。」

ライト
「それじゃあ・・・。」
皆
「お休み!!」

夜の時間？（後書き）

夜の時間 お・わ・り

新しい仲間♪(前書き)

新キャラ登場

新しい仲間♪

スカイ 「チュイーツス!!」

ライト 「あ、スカイ。チュイーツス。」

ウイン 「なんでこの暑い中こいつらは元気なんだ・・・?」

シルバ 「さあな。」

スカイ 「今日新しい仲間がやってきたよ!!」

フアルコン 「なんでまた、急に・・・。」

ウイン 「あいつらやっと着たのか」

スカイ 「ああ、そっちのメンバーはまだ着てないよくん☆」

シルバ (今日のスカイはテンション高いな・・・)

ポケトレ 「何人だよ・・・。」

スカイ 「今日は1人だけ。またこんど7人ぐらい来るよ。」

メタナイト 「ちょっとまって!! 多すぎるだろ!!」

スカイ 「さらにあと4人ぐらいは・・・。」

デデデ 「いったい何人来るんだ・・・。」

ピット 「アクチュアルワールドのメンバー総計15人ですね。」

スカイ 「まあそこから減るか増えるか・・・。」

ワリオ 「増えすぎだ!!」

ダリア 「けっこう楽しそうに会話してるね♪」

マルス 「そうだね・・・って・・・。」

一同 「誰?!」

ダリア 「こんちわ、ダリアです☆」

リュカ 「この人どこかで見たことあるんだけど・・・。」

スカイ 「当たり前じゃん。作者だよ。ユーザーネームは”まき

”」

リンク 「はあ?!」

スネーク 「てか作者の名前勝手に変えるなよ!!」

スカイ 「いいの、許可もらったから!」

ソニック 「そんなメールお前のパソコンに無かったぞ。」

スカイ 「直でお願いしたの。直で。」

一同 「は?」

ダリア 「だって私たちは……。」

スカイ 「同じ県の同じ市に住んで……。」

ダリア 「同じ学校同じ学年……。」

2人 「同じ部活所属だもん。」

ライト 「あ!このまえ大会会場であつた人か!」

ダリア 「そうだよ。」

ライト 「でも何で急に?」

スカイ 「人数合わせ。あと、いてくれた方が面白そうだから。」

アイク 「人数合わせ?」

スカイ 「こんなに暑いんだもん。だから……皆でプール使って運動会をやるうと思つてさ。」

シルバ 「で、何で人数合わせる必要があるんだ?」

ダリア 「アクトアルワールドVSニンテンドーワールドだから、」

カービィ 「面白そう!」

スカイ 「てな訳で、よろしく。」

ピカチュウ 「どんな競技があるの?」

スカイ 「考え中。後で会議やって決めるから。」

マリオ 「誰が会議すんだよ。」

スカイ 「私とダリアとシルバとライトとウィン。」

ダリア 「そんじや、会議室行きますか。」

シルバ 「了解。」

ライト 「ヨッシャー!」

ウィン 「めんどい……」

スカイ 「やりたくなかったらいいよ、」

ウィン 「んじゃ、やらない。」

スカイ 「はいはい、あ！さっきパウンドケーキ焼いたから
食べながら会議しよう。」

ダリア 「わーい！」

ウィン 「やっぱやる、」

シルバ （食べ物でつると絶対食い付くなこいつ）

スカイ （ここまで簡単に引っ掛かるとは……）

ミューツ 「私達は乱闘でもしているか？」

ルカリオ 「賛成」

トレーナー 「僕もやるよ」

リンク 「じゃあ俺も！」

———会議室———

スカイ 「じゃあ今から会議を始めます！」

ダリ ライ「イエーイ！」

シルバ 「テンション高いな。」

ウィン 「パウンドケーキうまい☆」

ダリア 「あ！私も食べる！！」

スカイ 「で、何かやりたい競技ある？」

シルバ 「普通にリレーとかは？」

ライト 「2コメ対決（200m個人メドレー）は？」

スカイ 「OK。だけど堅苦しいのばかりはな……。」

ウィン 「玉入れとかはどうだ？水球とか……。」

スカイ 「水中ドッジボールOrサッカーもいいかもね。」

ダリア 「ドッジボールの方が良くない？」

スカイ 「それじゃ、そんなところにしておくね。」
ダリア 「ん〜。じゃあ部屋でゆっくりしてるね。」

――大乱闘――

リンク 「でやー！」

ミューツ― 「ハッ！」

トレーナー 「リザードン、火炎放射！」

ルカリオ 「フッ」

リンク 「全然終わらない！」

ミューツ― 「長い」

トレーナー 「いつになったら吹っ飛ぶんだ？」

ルカリオ 「ん？まさか……ダメージが増えてない！」

3人 「な？」

ピンポーン

スカイ 「ゴメーン、何か機械が故障してダメージが増えなくなってるよ。強制的に終わらせるね☆」
4人 「は？」

バアアアアアン！

4
人

「ギ
ャ
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ア
ツ
ス」

新しい仲間♪(後書き)

「まきさん」が同じ部所属なのは本当です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2662s/>

スマブラ寮での生活

2011年10月8日20時52分発行